

長雨等に対応した茶炭疽病の効果的な防除法

秋芽の炭疽病防除の新しい防除体系

背景・目的

- これまで、茶の秋芽の炭疽病防除では、萌芽期～1葉期に予防剤を、2～3葉期に治療剤を散布する方法が慣行防除として行われていました。しかしながら、慣行防除では長雨等により炭疽病が多発する場合も見られることから、長雨に対応した効果的な防除法を検討しました。

成果の内容

- 秋芽等の炭疽病防除対策として、長雨の場合でも新芽を炭疽病から守る防除体系を3パターン設定しました。
- これらの防除体系は、慣行防除に比べ炭疽病に対する防除効果が高く、新芽の生育や雨の状況に応じて必要な防除体系を選択することが可能です。

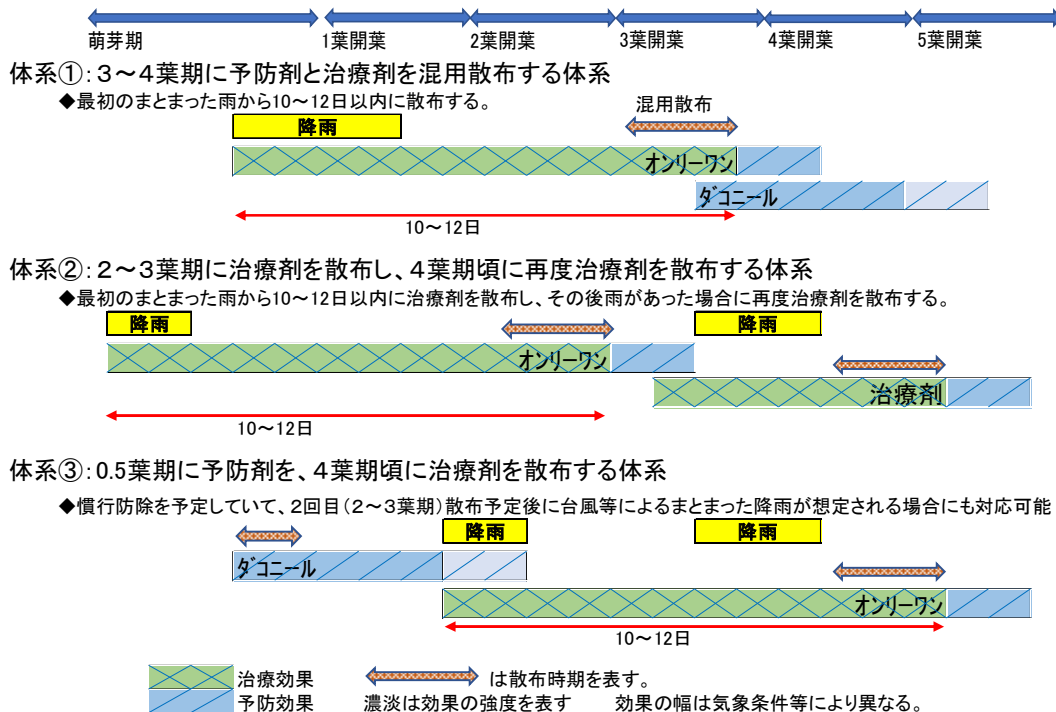


写真1：新芽の硬化初期に発生した炭疽病

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 生育ステージや気象条件に合わせた防除が可能です。
- 普及対象地域・面積 県内全域

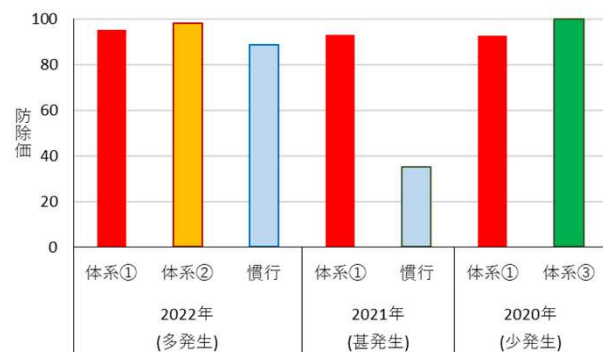


図2：各体系防除の炭疽病防除効果

- 治療剤を2回散布する場合には、抵抗性が発達しないように系統の異なる薬剤を使用します。
- オンリーワンフロアブルの他に、インダーフロアブル、サルバトーレMEが効果の長い治療剤とされています。

関連研究成果カード：2021年度後期 番号25

関連事業名：「煎茶の輸出を可能とする病害虫防除体系の構築」、「未来ある宮崎茶！革新的茶栽培技術の開発」（県単）

研究期間：2020～2022年度